

未来の大森山動物園、夢翔る

大森山動物園長 小松 守

はじめに

大森山動物園は市の南西部にある大森山公園の中にある。大森山の山頂からの眺望は素晴らしく秋田市街が一望できるほか、日本海や男鹿半島、さらには鳥海山まで眺めることが出来る観光スポットでもある。140種約650頭の動物を飼育展示し、日本を代表する猛禽イヌワシの繁殖のほか、園内には希少淡水魚ゼニタナゴの生息する沼があるなど、自然環境に恵まれた動物園である。秋田市や県内外からたくさんの方が訪れるこの場所をもっともっと魅力的に発展させ、秋田から全国に情報発信できる動物園にできないものか、年の初めにあたり、夢の大森山動物園将来像を描いてみた。

何のための動物園か

夢は荒唐無稽なものではなく、やはり実現させたいものである。夢を描くためにも大森山動物園の存在意義を明確にしておくべきであろう。幸い06年1月には秋田市大森山動物園条例が施行された。設置理念に「豊かな自然の中、人々に楽しい動物との出会いの場を提供し、命を学び、つなぐ場」と謳われている。動物が命をつなぎ、けんめいに生きる姿、きらきら輝く命を感じとってもらうこと、今の時代もこれからも大切にしたいものである。

また、たくさんの方が集う動物園は、秋田の情報発信とともに、観光拠点の一つとして賑わいづくりを進めることで地域経済の活性化へのお手伝いもできるかもしれない。

動物園が如何に高い理想を掲げ、命の教育、体験学習、環境保全など具体的な企画を展開しようとも、訪れる入園者がたくさんいなければ、企画は実効あるものにはならない。動物園を楽しく魅力的な場にしたい。

楽しい場であるために、そしてテーマは

それでは、人は動物園の何に魅力を感じるのか。ヒントは来園者が教えてくれている。

来園者が足を止め、たくさん集まるところは魅力の一つに違いない。動物が、生き生きと動き、エサを食べ、より近くで、そして触れ合うことができたらきっとわくわくするだろう。飼育者との会話が楽しめればなお楽しいだろう。スタッフのサービスと、動物との一体感がポイントになるのかもしれない。映像の世界がこれほど発達した時代にあっても、本物の命とのふれあいは人を魅了し続けるはずである。大森山動物園のテーマは「命とのふれあい」である。ただし、限られた財源で動物園の魅力をどうつくるのか。そこが悩ましいところである。